

A Note on Anticipated Shocks and Liquidity Traps

松山大学 蓮井康平

連邦準備制度理事会は昨年 12 月に政策金利をゼロ下限から引き上げたが、依然としてゼロ下限に近い状況が続いている。このような状況では、再び流動性の罠に陥るようなマクロ経済ショックが起きるという予測が経済の動きに影響を与える可能性がある。本研究では、ゼロ金利制約を考慮したフォワード・ルッキングのニュー・ケインジアンモデルを用いて、予期されたショック (anticipated shock) に対する最適なコミットメント政策を数量的に分析する。分析の結果は以下のとおりである。第 1 に、中央銀行はショックが実現する前にゼロ金利政策を取ることが判明し、その結果インフレーションが刺激されショックの実現時点でプラスに転じる結果を得た。この結果は、インフレーションがショック実現時にマイナスに反応する予期されないショック (unanticipated shock) の場合と異なる。第 2 に、コミットメントの影響力を弱める設定を行った場合、インフレーションはショック実現時にプラスに反応しなくなるため、インフレーションがプラスに反応するのはコミットメントの寄与による部分が大きいことが判明した。